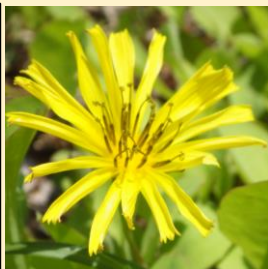


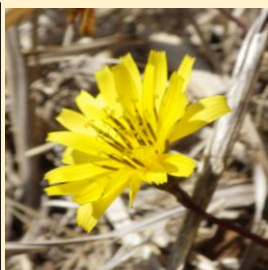
# 植物多様性センタークイズの答え=③

## ①オオジシバリ (キク科)

オオジシバリ



ジシバリ



低く地を這う多年草。茎や葉を切ると乳汁が出て、舌状花の先が5裂するタンポポの仲間の植物です。タンポポと比べて舌状花が少なく、細い茎が地を這うことで見分けられます。植物多様性センターの学習園の芝生や路傍では、オオジシバリとひとまわり小型のジシバリの両方とも見られます。日当たりのよい草地や田んぼのあぜ道、公園などでもよく見られます。

## ②ミチノクフクジュソウ (キンポウゲ科)



ミチノクフクジュソウ

早春に咲く多年草。元日草、元旦草などとも呼ばれ、正月などの寄せ植えにも添えられるおめでたい植物です。石灰岩地などに多く自生していましたが、園芸目的の採取や石灰岩の採石などで自生地が消滅したため、絶滅危惧種となっています。庭園などで栽培されているのは、ほとんどがフクジュソウとの雑種の3倍体の園芸種で種子はできません。

## ③カントウタンポポ (キク科)



カントウタンポポ総苞片



シロバナタンポポ



カントウタンポポ

東京で見られる在来種のタンポポの代表です。花の外側の総苞片が反り返らず、角張った突起が形成されます。最近では外来種のセイヨウタンポポやカントウタンポポとセイヨウタンポポとの雑種タンポポが増えて、遺伝子汚染による絶滅が危惧されています。学習園ではシロバナタンポポもご覧いただけます。